



# 道路ニュース

THE ROAD NEWS No. 616

令和3年3月号

発行所 全国道路利用者会議  
〒100-0013  
東京都千代田区霞ヶ関3-3-1  
尚友会館6階  
電話 03-3501-5611(代)  
発行人 小林 勉  
定価 20円(会員の購読料は会費に含む)

8月10日は「道の日」

## 東日本大震災から10年。

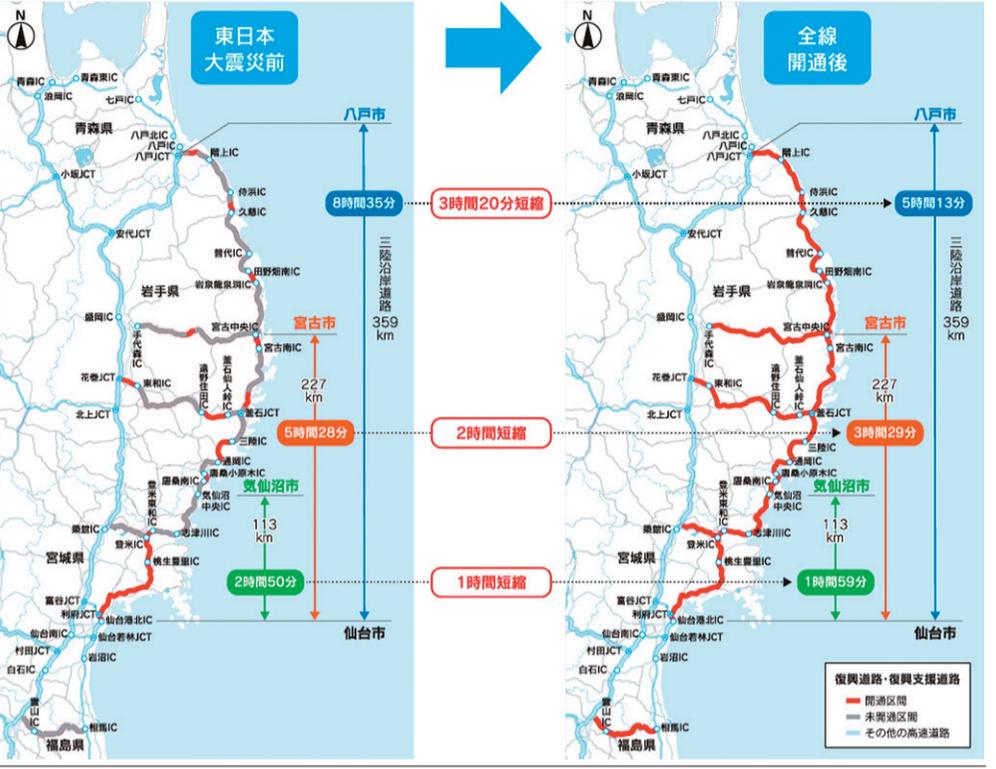
# 令和3年度に復興道路・復興支援道路が全線開通へ

平成23年3月11日に発生した有史以来の巨大地震が引き起こした東日本大震災は、直接の被災地である東北地方と一部関東のみならず日本中を巻き込み、さらに世界にも影響を与える未曾有の大災害となった。平成23年11月21日に第三次補正予算が成立し、「復興道路」、「復興支援道路」として事業が進められてきたが、令和3年度にようやく全線が開通する見通しとなった。

- ▽復興道路・復興支援道路 全線開通予定
- ▽待浜・洋野種市(令和2年度未開通予定)
- ▽野田・久慈(令和2年度未開通予定)
- ▽普代・野田(令和3年内開通予定)
- ▽田野畑南・尾肝要(令和2年度未開通予定)
- 《復興支援道路》
- ▽平津戸・岩井・松草(令和2年度未開通予定)
- ▽豊目・腹帯(令和2年度未開通予定)
- ▽川井・箱石(令和2年度未開通予定)
- ▽佐沼・佐沼北(令和3年度内開通予定)
- ▽霊山・国道4号(令和2年度未開通予定)

### 東北が強く元気に、つながる。

〔復興道路・復興支援道路の整備による効果〕  
 ◇観光の振興  
 復興道路・復興支援道路の開通により移動時間が短縮し、各地で観光客が増えている。宮城県南三陸町では、東日本大震災前と比較しても1.3倍の観光客数となり、福島県相馬市の観光施設では山形県や福島県内陸部から訪れる人が1.3倍となった施設もある。  
 ◇物流の効率化  
 復興道路・復興支援道路の開通により輸送時間が短縮し、各地で企業立地や物流の効率化が図られている。岩手県釜石港では港を



利用する企業が開通前と比べて2倍以上となり、福島県相馬港では背後圏への企業立地・増設が開通前と比べて6倍以上になった。

◇医療支援  
 復興道路・復興支援道路の開通により急カーブなどが解消され、患者の安定した輸送が可能となった。消防署からは「搬送時の患者の負担軽減につながった。大きな横揺れがなくなった。点検などの社内措置が走行中でも可能となった」といった声が聞かれた。

◇地域産業の振興を支援  
 復興道路・復興支援道路の開通により、各地の産業が好影響を受けている。青森

県八戸市では当日生んだ新鮮な卵の首都圏への出荷量の短縮から生まれた時間的余裕を生産時間に充てることで生産量の増加・売上が増加が全線開通により朝採れ品の期待される。



国土交通省が整備を進めてきた、復興道路・三陸沿岸道路(気仙沼港IC)〜唐桑半島IC)が令和3年3月6日(土)に開通した。

〔開通日〕  
 令和3年3月6日(土) 15時30分

〔開通区間〕  
 三陸沿岸道路(気仙沼港IC)〜唐桑半島IC)／延長7.3km

〔開通による整備効果〕  
 ◇災害時の代替性確保によるネットワーク信頼性向上  
 三陸沿岸道路の整備により、東日本大震災時の津波浸水区域を全て回避する。気仙沼市中心部から三陸



国土交通省が整備を進めてきた、徳島南部自動車道(徳島沖洲IC)〜徳島津田IC)が令和3年3月21日(日)17時に開通する。

〔開通日〕  
 令和3年3月21日(日) 17時

〔開通区間〕  
 徳島南部自動車道(徳島沖洲IC)〜徳島津田IC)／延長2.4km

〔開通による整備効果〕  
 ◇臨海産業拠点の物流効率化  
 沖洲地区・津田地区は多くの企業が集積する臨海産業拠点で、本州方面から津

沿岸道路へ5箇所のアクセスが確保され、大規模災害時の救援活動を支援する。三陸沿岸道路全線開通により、被災時の主要都市間の移動時間が大幅に短縮、迅速な復旧活動を支援する。

◇生産安定性確保による地域産業の支援  
 気仙沼市の主要産業である水産加工業は、東日本大震災により大きな被害を受けたが、出荷額は震災前の水準まで回復した。

三陸沿岸道路の整備により、気仙沼港からだけではなく、宮古市や大船渡市も合わせた三陸沿岸地区からの水産物調達の選択肢が増え、生産、出荷の安定性に寄与する。

三陸沿岸地域の広域周遊観光を支援  
 三陸沿岸地域では、震災伝承施設や観光拠点などの整備され、気仙沼圏域の観光の舞台となり、観光面での地域活性化が期待される。

“道路総合システムサービス”企業

**ニチレキ株式会社**

東京都千代田区九段北4-3-29 TEL.03(3265)1511代表

令和2年度「道路ふれあい月間」推進標語

『道路を笑顔で歩こう』

特に気仙沼湾横断橋は、復興のシンボルとして橋梁自体が観光資源となり、更なる観光振興を支援する。

田地区へ向かうには、徳島市中心部の渋滞区間を通過する必要があり、物流面に支障をきたしていた。今回の開通により渋滞箇所を回避できる新たなルートが生まれ、時間短縮に加えてピーク時間を中心としたロス減少により物流の効率化や企業間連携が強化が期待される。

◇渋滞区間を回避し、ドライバーの負担軽減  
 徳島市中心部の国道11号、国道55号、徳島環状線では広域的かつ慢性的な渋滞が発生している。今回の開通により、沖洲

津田地区では徳島沖洲IC〜徳島津田ICの開通に合わせ、遊休化していた水面貯木場を新たな企業用地として活用するなど徳島県による企業誘致が進められ、新規分譲が始まる。